

# VARÓN DE DIOS

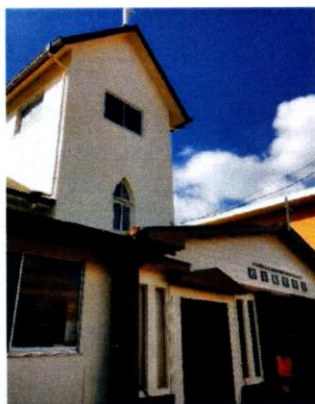
## (神の人)

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団  
九州教区 壮年部 2025年2月

九州教区の壮年部の皆様、いかがお過ごしでしょうか。 暦の上では、今日は立春（2月3日）になっていますが、ニュースでは今週は10年に一度の寒波で、九州でも降雪の予報が出ています。温暖化で昨年の夏は暑かったのですが、その分冬は暖かくとはいかないようです。

今回の「神の人」は、熊本市にある熊本聖書教会の特集です。

### 熊本聖書教会



1957年に坂本克明と幸子師が熊本市本荘町で開拓伝道を開始したのが熊本聖書教会の始まりです。以来、合計15人の伝道者が赴任しました。1964年

1月に熊本市九品寺の建物を購入、会堂としました。1967年に熊本城から徒歩圏の住宅地に百坪の土地を購入し、旧会堂の資材をそのまま使って献堂しました。先代の長澤忠雄師がモットーとした「ちょっと怠け」が伝統として残り、穏やかな信仰の教会です。現在は毎週日曜日午前に礼拝、毎週水曜日に祈祷会を持ち、月に1回2つのスモールグループを開催しています。 (長澤牧人)

### 「私の居場所」

栗原喜二郎

私がイエス様を知ることになったきっかけは、私が24歳の時、勤めていた会社を辞める時でした。クリスマスが近づいてきた日曜日、いつもの様に繁華街に行く途中、女性から「近くで青年の集会をしていますので、お時間があればどうですか？」というお誘いを受けました（当時盛んだった路傍伝道です）。



その時は先を急いでいたので連絡先だけ聞いて別れたのですが、何か気になり連絡を取って次の集会へ行くこと

にしました。集会に参加してみると、想像していたキリスト教の厳かな集会ではなく、青年がギターを弾き、男女が手を叩きながら、フォークソングみたいな曲を歌い、何か解らない言葉で祈るそのような集会でした。その時、「これはやばいところに来てしまった。」と思いつつも、男女の笑顔に心が癒されて帰ったことを思い出します。

その後、会社をやめて社会生活の不安もあって、礼拝や集会に参加するようになり、正月の聖会でなんと洗礼を受けていました。それからその年の4月に、同じ教会の姉妹（現在の妻）と結婚したのですが、人の輪に入るのが苦手だった私は、礼拝や集会が終わるとすぐに帰っていました。そんな中で神様は、礼拝の賛美リードという奉仕を与えてくださり、私を人の輪の中に導いてくださいました。

そのあと、転職をきっかけに近くの教会を探していたところ、家のすぐ目の前の伝道所（クリスチャンセンター）を見つけ通り、その後島崎の母教会へ通うよ

うになりました。ここでも神様は賛美リードという奉仕を与えてくださり、現在も奉仕に携わらせて頂いています。コロ



ナ以降は礼拝のLIVE配信も担当させて頂き、失敗を繰り返しながらもなんとか今の状態まで

こぎつける事ができました。

神様は必要な時に必要なものを与えてくださり、伝道も御言葉を語ることもできない私に賛美という奉仕を与えてくださり、私に教会の中での居場所を与えてくださいました。今からも神様を賛美し褒め称える奉仕のために、配信を必要とされている信徒さんやリスナーのために、さらに良きものとなるように祈りつつ努力していこうと思っています。何も取り柄のない欠点だらけの私ですが、教会を支えることのできる一信徒として用いられる様に祈りつつ仕えていきたいと思っています。

「目に見えないもの」 塚本 栄樹  
「わたしたちは、見えるものではなく見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くのである。」コリント人への手紙Ⅱ4章18節



現在 70 歳の私は 27 歳の時に洗礼を受け、信仰生活は約 43 年になります。20 歳から 53 歳

になるまで、持病の下痢にわずらわされ続けましたが、ある治療をきっかけに下痢がいやされ、現在はほとんど症状が出ること

なく健康な生活を送っています。もっと早い時期にこの治療を受けられたらと思うこともしばしばですが、わたしにとってこの時期が最善であったのだと思います。

最近になって理解したことですが、私が下痢で苦しんでいる時に、わたしのために多くのとりなしの祈りがささげられていたということです。そのことを理解できたのは、誰かに教えられたわけではなく、神様によって示されたということです。長い時間がかかりましたが、この歳になってようやくそれを理解することができたようです。ほんとうに若いときに神様を知ることができる人は幸いであると思います。

そのことから、今は特に病気の人に対して、その癒しのために祈るようにしています。



祈りは目に見えることはできませんが、このことを通して私たちは、神様と繋がることができ、神様の思いを知ることができるのではないかと思います。

「いつまでも、残るのは信仰と、希望と愛です。」コリント人への手紙第一

### 13 章 13 節

これら目に見えないものに心を留め信仰生活を続けていければと願っています。

広報誌の名前は「VARON DE DIOS」(バロン デ ディオス)です。これはスペイン語で「神の人」という意味です。

九州教区 壮年部担当 松尾 敬文

福岡市東区水谷 1-14-3

福岡キリスト教会 092-681-5501